

様式B

平成29年度 幼稚園 ゆめプラン評価公表シート

和歌山市立湊幼稚園

教育目標 心豊かでたくましい子どもを育てる

ゆめ	重点目標	具体的取組	取り組みの状況	
「かかわる、つながる、そだつ」みなとっこ	人とのつながりを見直し・子どもと心と体の成長を追求するための構築	多様な体験ができる豊かな環境の構成	自然環境を整備する	季節に合わせた植物・農作物栽培、調理と会食を年齢による役割分担で進めるとともに園庭の樹木・藤棚・芝生を整備、朝の活動等で活用することで、自然物に囲まれた屋外での遊び環境を作った。
		園生活に係る環境を充実させる	四季折々の自然物の保育室等への配置、七夕・餅つき 節分などの伝統行事体験、動物園等への園外保育、体操教室・リミック、和太鼓などの体験等、多様な経験ができる環境を構成した。	
		地域の環境を生かす	緑地公園や河川敷公園での活動を計画的に設け地域の自然に触れるとともに、地域の方に畑を借りた農作物の栽培活動や焼き芋パーティ、餅つき大会、敬老会訪問等定期的に地域の老人会の方々との交流を図った。	
	一人一人の発達に対応した支援	個人記録を指導に生かす	「かかわり」を観点に研究保育を実施した。保育活動の記録と一人一人の子どもへの援助の記録をとり現職教育で「今週のみなとっこ」として情報共有を行った。成果を市幼稚園教育研究会で報告した。	
		家庭や地域・専門機関との連携を図る	和太鼓の指導や老人会との交流、ボランティアの受け入れ、中学生の職場体験の受け入れなどいろいろな世代との「かかわり」作りを行った。県医大支援室や保健センター等との連携等による子ども支援体制を作っている。	
		「かかわり」に係る環境設定を行う	朝の縦割り活動・仲良しグループなどによる異年齢との関わり、年長児による年中・少児へのサポート、「かかわり」をテーマにした交流遊びの設定等を実施した。子どもの社会性を育む環境設定を行った。	
	人との心と体の成長を追求するための構築	基本的な生活習慣・食育への啓発を行う	食育パーティや鍋パーティ等、年齢別に役割を持たせた栽培・収穫・調理活動を通じた基本的な生活習慣の育成と食育啓発及び、食育講演会などを通じた家庭における食育への関心を高める取組みを行った。	
		学びの連続性を探る	縦割り活動等による異年齢交流や湊小学校各学年との定期的交流による幼小交流等による学びの連続性追及、ボランティアや老人会との交流等による世代間の連続性・地域と園との連続性を追求した。	
		集団でのかかわり方の向上を目指す	グループ遊びや異年齢による活動、多様な外部人材とのかかわり、かかわりの観点からの園行事見直し等、集団でのかかわり力向上を目指す環境構成を行った。	

2. 保護者アンケート集計結果の比較から見えてきた成果や課題

・集団での基本的な生活習慣の育成や栽培活動、芝滑り、遠足等園独自の特色ある取組が評価されている。・積極的なHPからの発信等も評価された。日々の子どもの様子を直接伝える活動も地道に行っていきたい。・個別参観の設定が好評であった。・外部人材を活用したいろいろな世代とのかかわりづくりが評価されている。・園舎の整備、駐車場確保は園独自では行えないが、努力を継続する必要がある。「預かり」についても教材研究の時間確保と人的配置に課題がある。

3. 今年度の取組の成果と課題・今後の改善方策

・外部人材や関係機関との連携による「かかわり」をキーワードとした取組、HPによる情報発信が成果を上げている。・保育において学ばせたいことと身につけさせたいことを保護者の方により丁寧に伝えるとともに、普段の保育の様子や途中の援助の様子、園児の活動を気軽に見ることができるよう個別参観等の機会を整備する。・園・保護者・子どもたちが楽しく関わりながら、園生活を送るとともに、社会的マナーを習得したり、育友会活動を展開していけるようより良い連携の在り方を探る。

4. 学校関係者評価委員による自己評価の検証

・いろいろな人と出会い、いろいろな体験ができるのは、大変良い。
 ・湊小学校区以外の園児も多いが、和歌山市の子どもを育てるという意味で、活動を続けるべきだ。
 ・地域でも園の充実を支えていきたい。HPによる広報もよく見ている。
 ・照明などや園舎の施設設備が古くなってきている。整備できるよう努力されたい。